

熊本・新潟・富山の語り部による初の伝承会を開催

10月6日（土）、水俣病、新潟水俣病、イタイイタイ病の語り部の方々が初めてイタイイタイ病資料館に集まり、「語り部による伝承会」を開催しました。

まず、約90名の一般参加者を前に、水俣市立水俣病資料館の緒方正実さん、新潟県立環境と人間のふれあい館の小武節子さん、イタイイタイ病資料館の高木良信さんと小松雅子さんが順に語り部講話を実施。体験談を交えながら、公害の恐ろしさや悲惨さが語られ、事実を伝えることの大切さが訴えられました。

続いて、イタイイタイ病対策協議会の高木会長にも参加いただき、「公害をいかに後世に伝えるか」と題した意見交換会が行われ、何れの資料館でも抱えている語り部の高齢化や後継者の問題などについて、活発に話し合われました。また、子どもたちに伝えることの重要性が再確認され、「語り部出前講座」などの提案も出されました。

今後とも各地域との連携を強化しながら、この伝承会を毎年継続し、「公害病の貴重な教訓をつなげていく場」にしていきたいと考えています。



子どもたちの「学び」を「手作り新聞」で伝えます

多くの子どもたちが資料館でイタイイタイ病をはじめ、環境や健康についての「学び」を深めています。この11月から、資料館2階の資料閲覧室に、子どもたちの「学び」を紹介するコーナーを設けました。

資料館では、これまで来館された学校から、子どもたちが資料館見学後に学習成果としてまとめた資料やレポートなどの提供を受けており、こうした資料をこのたび新設したコーナーで皆さんに広く紹介していきます。

現在は、2つの小学校（射水市立塚原小学校、滑川市立北加積小学校）の5年生がそれぞれ新聞形式でまとめてくれたものが閲覧できます。どの作品も子どもらしいイラストが盛り込まれ、色鮮やかなデザインで紙面づくりがされています。イタイイタイ病に対する思いの感想が綴られており、来館時にしっかり学んだ様子が伺えます。

ぜひ資料館へお越しの際は、子どもたちの学びの証ともいえるこれらの「力作」をご覧ください。

